

教 育 長 様

研究コース	
S 研究テーマ指定 (A)	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
選定番号	309

代表者 校園名 : 大阪市立大和川中学校  
 校園長名 : 福島清文  
 電 話 : 06 - 6694 - 0005  
 事務職員名 : 木戸麻生  
 申請者 校園名 : 大和川中学校  
 職名・名前 : 主務教諭・小谷拓  
 電 話 : 06 - 6694 - 0005

## 令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和4年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	S 研究テーマ指定 (A)	研究年数	継続研究 (2年目)												
2	研究テーマ	<b>GIGAスクール環境下における多様な学びの実現と個別最適化学習の探究</b>															
3	研究目的	<p>本校は昨年度より本研究支援を受け、GIGAスクール環境における「個別最適化」された学びについて、実践研究を積み上げてきた。</p> <p>昨年度はコロナ禍により市内向けの公開授業を実施できなかったが、これまでの実践が認められJAET先進校に認定されている。また、日本教育メディア学会で本校のICTを用いた実践を論文発表するなど、可能な限りの発信に努めた。</p> <p>しかしながら、実践結果の分析は単年で可能なものではないため、本年度も継続実践を行うことで、GIGAスクール環境 (GIGA端末を活用した環境) における「個別最適化学習」「学びの主体性」「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指していきたい。</p> <p>また、実践内容を大阪市での報告で終わらせることなく、多くの場で発信することで取り組みについての理解・普及を目的とする。</p>															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5ポイント)</p> <p>①年度当から年度末まで、教科学習におけるパッケージを昨年度に続き作成・提供を行った。制作したパッキングリストは「NHK for Schoolの動画リンク」「自作の授業動画」「板書」「授業内で提示するスライド」「シンキングツール」「学習の進め方ガイド」「ループリック」「自己評価シート」「単元課題」であり、内容については昨年度提供のパッケージを基盤とした。また、本年度も各単元ごとのアンケート結果を参考に、内容を精査・修正・追加している。</p> <p>アンケートは、実践者が各クラスの単元学習が終了する毎にGoogle フォームで実施し、集計を行った。</p> <p>②年間を通して、デジタルドリル「ナビま」とAIドリル「すららドリル」を併用し、どの習熟度の生徒がどちらを使うのかという検証を行うとともに、ドリル自体の活用率などから有効性の検証を行った。これは「個別最適な学び」にICTでのドリル学習がどの程度寄与するのか、という視点からの実践である。</p> <p>③VRゴーグルを使用した擬似体験学習を行った。昨今のICTの発展は著しく、現在のGIGA端末だけでは時代の潮流に乗っているとは必ずしも言えない。そこで最新のVRをもじいて様々な体験をすることで、これから社会を担う人材育成にプラスの影響があるのではと考えた。今年度は不定期に、教科横断的な活用を行った。(メタバースアプリ・GoogleアースVR・YouTubeVRなど)</p> <p>④共同学習アプリの活用を年間を通して行った。共同学習についてはコラボノート・SKY MENUの2種類を場面に応じて使い分けた。(生徒の習熟度や単元内容に合わせて) 目的は「対話的で深い学び」へ誘うことであり、問題点もあったが概ね良好な活用実践であった。</p>															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 2 月 13 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 36 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大和川中学校 公開授業・協議会 講師「岐阜聖徳大学教授 玉置崇先生」</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3">令和4年10月28日 日本教育工学協会 (JAET) 全国大会 愛知県春日井市 市民会館 令和5年2月17日研究発表会 NHK個別最適な学び研究会 NHK渋谷放送局 講師「園田学園女子大学 堀田博史教授 明星大学 今野孝之准教授」</td> </tr> </table>				日程	令和 5 年 2 月 13 日	参加者数	約 36 名	場所	大和川中学校 公開授業・協議会 講師「岐阜聖徳大学教授 玉置崇先生」			備考	令和4年10月28日 日本教育工学協会 (JAET) 全国大会 愛知県春日井市 市民会館 令和5年2月17日研究発表会 NHK個別最適な学び研究会 NHK渋谷放送局 講師「園田学園女子大学 堀田博史教授 明星大学 今野孝之准教授」		
日程	令和 5 年 2 月 13 日	参加者数	約 36 名														
場所	大和川中学校 公開授業・協議会 講師「岐阜聖徳大学教授 玉置崇先生」																
備考	令和4年10月28日 日本教育工学協会 (JAET) 全国大会 愛知県春日井市 市民会館 令和5年2月17日研究発表会 NHK個別最適な学び研究会 NHK渋谷放送局 講師「園田学園女子大学 堀田博史教授 明星大学 今野孝之准教授」																
		<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b> GIGAスクール環境下において、端末を使いこなし個別最適化学習の手段として主体的に活用する生徒の育成。</p>															

6 成果・課題		<p>《検証方法》 定期的にガイダンス、アンケートを実施することで、端末が従来の筆記用具などと同じように日常的に活用できているのかを細かく数値でも把握する。 また昨年度との経年比較も行い、ガイダンス・アンケート項目の見直しも実施する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 GIGA端末について、大和川中学校では配布当初から管理を生徒に委ねてきた。日常的に授業での活用、日々のスクールライフノートの入力、また家庭への持ち帰り学習にも活用することで、目標である「個別最適な学び」の一助になったと考えている。 アンケート結果についても、「学校教育にICTは必要である」との回答が年度当初の85%から95%へ上昇したことを鑑みても成果があったといえる。</p> <p>【見込まれる成果2】 自ら学習ツールや教材を選択し、主体的に学びに取り組む生徒の育成</p> <p>《検証方法》 アンケートで、学習に活用した教材の順番や学習時間を聞き取ることで家庭学習の進め方など、生徒の学習の在り方を可視化する。 また、AIドリルや協同学習ツールなどでアンケートだけでは拾いきれない、学習時間や進度の把握を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕 大和川中学校では本実践研究における単元学習教材のパッケージ提供だけでなく、ICT活用の場面でさまざまな選択肢を提供した。結果としてデジタルドリルについても既存の「ナビま」に加えて、AIドリル「すららドリル」を提供、共同学習や探究活動の場面では共同学習アプリ「コラボノート」と「SKY MENU」を場面に応じて活用し、シンキングツールの活用についても生徒自身に何を使うか選択させるなど、主体的に取り組む姿勢を尊重することを重視した実践となった。学習時間についても全体として伸びており、学習意欲へのアプローチにもなったと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果3】 パッケージの有効活用やVRを活用した学習において、協働的なツールとしてICTを活用できる生徒の育成</p> <p>《検証方法》 協働学習ツールとしてコラボノートやVRでの交流学習などを通し、その学習履歴を検証することで活動状況を把握する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 共同学習ツールの活動ログ機能を活用することで、どのようなプロセスで取り組みを行ったのか検証しつつ実践を進めることができた。検証結果を踏まえながら、各単元での発問などに変化を加えることで共同学習での交流が「会話」から「対話」になったと感じる生徒が増えたことがアンケート結果でわかった。 またVR体験授業は多くの生徒が近未来の学校の姿を予測し、今後の社会を考えるうえで貴重な経験だったと回答する生徒が全体の8割を超えていた。</p>
研究コース 代表校園	S 研究テーマ指定（A） 大阪市立大和川中学校	選定番号 309 校園長名 福島清文

<p>【見込まれる成果4】 パッケージを作成することで、教員のインクルーシブ教育への意識を向上し、学習の個別最適化を浸透させる。</p> <p>《検証方法》 教員研修（ワークショップ型）、またそのアンケート内容から教員全体が新学習指導要領に沿ったマインドセットに変化しているか検証を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕 大和川中学校での教員研修の回数を増やし、全員参加型のワークショップを意識して取り組みを行った。 ICTについて苦手意識の教員も一定数存在するが、「持続可能な学校」というテーマで考えることで意識が変わってきたとアンケートで回答する教員が増加した。</p> <p>【見込まれる成果5】 GIGAスクール環境に対応し、指導に有効活用できる教員の育成</p>	
---	--

6	<p>成果・課題</p> <p>〔検証方法〕 今年度より、校内研修を、全員参加のグループ方式に変更し、互いの授業力向上、資質の向上に努める。そこでGIGAスクール化に対応できるよう外部研修などへの参加をグループ単位で促し、アンケート・レポートを共有しないようを校内研修で検証する。</p> <p>〔検証結果と考察〕 教員アンケートの結果、成果4と重複する結果が多く見られた。 コロナ禍の緩和もあり、教員が外部の研修や研究会へ積極的にこれまでよりも多く参加することと、本研究の推進教員だけでなく学校全体でGIGAスクールや新学習指導要領に則した授業・行事をしていこうという機運が高まっているということがアンケートの結果よりわかった。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 本研究で目指した、教科学習のパッケージングを行うことでの個別最適な学びについて、一定の成果があったと認識している。生徒の教科観や学習法へアプローチできしたこと、結果として単元テストや単元課題の成果改善へ繋がったことは大きい。今後のGIGAスクール環境下で、教科学習のパッケージングがICT活用法として汎用性を持ち、今後さらなる個別最適な学びに繋げることができるように、実践を続けたい。</p> <p>また、本年度は学校としてICTの取り組みを大きく拡充することができた。その結果JAETのICT推進先進校の認定を2年連続で受けることができている。 しかしながら、生徒のテスト（チャレンジテストなど）のスコアが伸び悩んでいるという課題も抱えており、今後ICT活用での学習意欲向上と基礎学力の定着をどのように両立させてくのかという問題に取り組んでいく必要がある。</p> <p>《代表校園長の総評》 本校の取り組みについて、昨年度に続き2年連続でJAETの情報化認定において先進校の認定を受けることができました。これは中学校カテゴリーでは日本初のことであり、大きな成果であると考えており、実際に認定を知った多くの自治体からの学校視察を受け入れ、その都度大阪市や大和川中学校の取り組みを発信してきました。 がんばる先生の取り組みについても2年目を終え、成果と課題も見えてきたところです。 今後について、学校も50周年という節目を迎えたことから、次の50年に向けて「持続可能な学校」であるためには、何が必要なのかという視点から新年度に向けて新しい取り組みを進めていくよう、計画しているところです。今後ともご支援のほどよろしくお願ひいたします。</p>
---	--